

9 小児外科フェロー研修要綱

指導責任者 小野靖之

【当センターの特徴・体制】

当センターは愛知県の小児専門病院として、小児医療の中心的役割を果たしている。小児外科のスタッフは4人（2018年7月現在）で、年間手術件数は300件前後である。

日本小児外科学会は専門医資格の申請条件の一つに、認定施設または教育関連施設での3年以上の研修を必要としている。当センターは名古屋大学小児外科（認定施設）に属する教育関連施設となっており、ここでの研修期間は専門医取得に必要な研修期間に含まれる。

フェローに関しては所属医局に関係なく広く受け入れている。

2016年11月に周産期部門（NICU・産科）が開設され、胎児診断例、新生児症例の受け入れが可能となった。新生児外科症例も徐々に増加しつつある。しかし血液腫瘍科はなく、腫瘍症例は限られるため、必要に応じて名古屋大学と連携し、大学病院での研修も合わせて行うことにより専門医取得に必要な症例経験を積むことは可能である。

フェローの経験年数、希望などにより、個々に応じた研修を行っている。小児外科専門医の取得を目標とした研修が一般的である。以下にそのコースの概要を示す。

〈小児外科専門医取得コース〉

対象：後期研修終了後で、日本外科学会の専門医を取得した方、またはそれと同等の一般外科研修を経験した方

期間：2～3年

当施設で1～2年の研修を行い、症例不足分を名大病院で研修する。

すでに他施設で小児外科研修の経験があれば、期間については相談に応じる。

【一般目標】

小児外科専門医として地域での診療を行うために、一般的な小児外科疾患の病態や治療法を理解し、診断や手術に必要な手技を習得し、患児・家族への十分な説明ができるようにする。また、専門医取得に必要な症例経験、手術の執刀、学会発表、論文報告を行う。

【行動目標】

1. 小児外科の代表的疾患の病態・診断法・治療が理解できる。
2. 基本的な診察手技を習得する。
3. 造影検査、エコー検査から所見が判別できる。
4. 代表的な疾患の治療方針を説明できる。
5. 適切な術前・術後の管理ができる。
6. 家族に疾患や治療法につき説明できる。
7. 年間80例以上の手術執刀（鼠径ヘルニア類 50例以上）
8. 学会発表を年2回以上
9. 論文を1編以上

【研修方略】

小児外科週間予定表

| 曜日 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|-------|--------|-------|----------------|----|
| 午前 | 病棟 | 手術 | 消化管検査 | 症例検討会 抄読会など | 手術 |
| 午後 | 外来/手術 | 手術 | 外来/病棟 | 病棟回診 | 手術 |
| 夕方 | | 手術手技検討 | | | |

病棟

上級医とともに症例を受け持ち、診察手技、治療計画の立案、術前・術後管理を学ぶ。

外来

1年目は上級医の外来を見学し、初診患者の診断アプローチおよび術後患者のフォローアップ法を身につける。初診患者の問診、診察を行う。

2年目以降は外来を担当する。

手術

基本的にすべての手術に参加する。

日常的疾患に関しては執刀を行う。鼠径ヘルニアは年間50例以上を目標。

検査

毎週木曜日の午前に消化管の造影検査などを行う。

エコー検査を上級医または放射線科医とともに行う。

カンファレンス

入院患者のプレゼンテーションを行う。

学会発表

小児外科関連の学会、研究会には積極的に参加する。

上級医の指導の下、年に2回以上の発表を行う。

論文

上級医の指導の下、研究論文または症例報告の投稿を行う。

その他

希望により月曜日に名古屋大学での手術見学、トレーニングボックスによる鏡視下手術の練習を行う。